

『明治村村長宣言』

2015年1月20日

このたび、畏れ多くも第四代明治村村長を拝命いたしました。第一代の徳川夢声氏、第二代の森繁久弥氏、そして第三代の小沢昭一氏に続き、その流れからみて、なぜ次が阿川佐和子なのか？……と、首を傾げておられる方も多いかと存じます。私自身、これは大それたことを引き受けた、荷が重すぎると、少々腰が引けているところです。が、実のところ、心のどこかでウキウキしている部分もございます。

学生時代、ろくに勉強もしなかった私が申し上げるのも僭越とは思いますが、近年とみに、自分を含めた日本人全般が、自らの国の歴史に対して無知かつ無頓着過ぎると感じる機会が多くなりました。新しいシステム、技術、科学、流行、風潮、情報に追いつこうとするあまり、ほんの数年前の事柄すらほとんど記憶にない。あげく、トラブルが起こるとその場しのぎの解決策や損得勘定で対処することに慣れ、かつて心に秘めていたはずの志をあっさり捨ててしまう。歴史を顧みなかったツケが、どうやらこの期に及んでじわじわと日本人を苛み始めているように思われるのです。

本来の日本人の誇るべき精神はどこにあったのか。海を渡って初めて日本の地を踏んだ先進各国の人々が、日本人の何に驚き、どこで感心し、どれほどの畏敬の念を抱いたのか。そろそろ真剣に振り返り、学ぶべきときが来たように思います。

村長をお引き受けすることが決まってから私はさりげなく周辺調査をいたしました。私より若い仕事仲間、「明治村って、行ったことある？」と質問してまわったのです。すると、これは残念なお知らせではありますが、たいていの若者（東京在住）が、

「明治村って、何県にあるんですか？」 「知らない……」 「なにがあるんですか？」 「行ったことないです」 「修学旅行で一度だけ……」

今やあらゆる情報に長けているはずの若者の関心の範疇に、どうやら明治村は入っていないようです。かくいう私とて正直なところ、還暦を過ぎたこの歳まで一度しか訪れたことがない。訪れたときは、面白い面白い、もっと歴史を学ばなくてはと心に誓ったのでありますが、その後は日常の雑事に追われて、すっかり遠い村となっております。ふむふむ、これはゆゆしきこと。

第四代の名誉ある村長をお引き受けしたうちは、その名を汚さぬためにもこの際、明治村のイメージを、「え？ まだ行ったことないなんて、ポップじゃないねえ」ぐらいのものに押し上げようと企んでおります。そして、訪れた人々に対し、上から教え知らしめる姿勢ではなく、さりとして時代に迎合し、奇をてらうようなしつらえを試みるでもなく、半日をこの村で過ごすうち、かつて大量なる西洋の文化技術を取り入れながらも日本古来の技や知恵や精神をそこに吹き込んで、器用に自らの生活に融合させていった明治の人々の心を感じ取ってもらえるような場所にしたいと念願しております。それこそが、村長の使命であり、さらにこれからの子供たちに残すべき大人の義務ではないかと思っております。

阿川佐和子